



大宮 鬘



URL <https://www.suginami-school.ed.jp/oomiyashou/> 題字「大宮鬘」(おおみやこう)勝 海舟

「みんなが主役」(学芸会)

校長 森 孝

10月になっても夏日があったりして残暑が長引いていましたが、ようやく気温も下がって秋めいてきました。秋は、読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋などという言葉があるように、何をするにも良い季節だと言われます。大宮小学校でも、学芸会が予定されており、文化・芸術に親しみながら、子どもたちはそれぞれの学年で行う劇の練習に一生懸命取り組んでいるところです。

学芸会は、江戸時代の寺子屋で行われていた「席書」という、外からも見学ができるように開け放した教室で習った文字を一人ずつ書くという寺子屋の最大のイベントがルーツだそうです。明治時代になり、学芸会(学習発表会)は、「書」だけでなく唱歌や朗読など多様な内容へと変化していきませんが、学習の成果を発表するという寺子屋時代のねらいは、生きていたようです。その後、大正時代になると「学校劇」という新たな内容が加わり、それがその後の学芸会の定番として全国に広がったと言われています。そして、現代では、従来の「演劇」中心の学芸会だけでなく、再び内容が多様化してきています。それに伴い、名称も学習発表会や学校独自のもののように多様化しているようです。

10月19日に147周年を迎えた大宮小学校ですが、大宮小の学芸会はいつ頃からどのような形で始まったのか、と大宮小の歴史を調べてみました。残念なことに学芸会に関する記録がなく、周年の際の記念誌などを読み返しても学芸会の歴史が分かるような文章が見当たりませんでした。学校に保管されている卒業アルバムには、昭和40年代になると写真が残っていますが、それ以前のアルバムには学芸会の写真はありませんでした。引き続き調べてみたいと思っています。

さて、現代の大宮小学校では、学芸会への取組においても、年度当初からくり返しお伝えしてきているように、「子どもが主役」そして子どもたちが主体的に活動していけるよう、各学年で工夫をしながら進めています。台本を子どもたちが考えたり、場面ごとの演技を子どもたちが話し合いながら工夫できるようにしたり、子どもたちの思いや子どもたちの声を生かしながら練習をしています。私も、子どもたちに「みんなが主役」という話を朝会でしました。一人ひとりが活躍し、輝ける学芸会、何よりも子どもたちが心から楽しんで取り組み、本番を迎えられる学芸会となるよう、学校全体で取り組んでいきたいと考えています。

～ 今月の目標 ～

生活

友達を大切にして、
お互いの良いところを伝え合おう

保健

姿勢をよくしよう

給食

感謝して食べよう